

# 高等学校 国語科 シラバス

## 「3年間のねらい、学習目標」

人間が人間たるゆえんはどこにあるのか。それは、我々が「考える」存在である、というところにある。我々は、一人一人が違った考えを持つ存在である。自らの考えを他者に伝える手段として、また他者の考えを理解する手段として「言葉」が必要になる。我々は、「言葉」を通して他者と自己の違いを知り、精神的に成長していく。

考えもしなかった新しい視点で物事を切り取った文章に触れたとき、我々の世界は広がる。想像もつかない遠い時代の詩に出会ったとき、我々の人生は深みを増す。

「言葉」は、人生を豊かな、立体的なものにしてくれる、かけがえのない「出会い」でもある。

このようなことに思いを巡らせるとき、自ずと「国語」を学ぶ目的が見えてくる。すなわち、説明的文章を学ぶ目的は、新しい視野や考える道筋を獲得し、思考力と判断力を高めることにある。文学的文章を学ぶ目的は、人間存在に対する理解を深め、自らの生き方を見つめ直す糧とすることである。古典を学ぶ目的は、古人の生き方や価値観に触れることで、人間存在にとって不変のものを確認する、または変化するものに気づき、そこから現代という時代について考えを深めることにある。そうして生み出される自らの思索の結果を、ただ内面に沈殿させるのではなく、他者に伝えて活きたものとするために、表現力を鍛える。

優れた詩や文章に多く出会うことで、自らの内面と言葉を磨き、確固たる自己と豊かな感受性を備えた人間となって、この同志社香里高校を巣立って行ってほしい。そして、広い世界で自らを発信し、他者とつながることで、豊かな人生を送ってほしいと願っている。

学年	第1学年	教科書	第一学習社 『高等学校 国語総合』
		副教材	浜島書店 『国語便覧』 漢字検定準2級対策問題集 文法テキスト 古文単語集

## 学習到達目標

- 漢字 常用漢字を概ね習得し、日本漢字能力検定準2級の取得を目指す。
- 文学的文章 文学的表現を味わい、人間についての理解を深める。また、詩や短歌を通して、新しい視点で日常を見つめる表現世界を味わう。
- 説明的文章 さまざまな意見に触れることを通して、自分自身の考えを形成する。また、すぐれた文章を読み解くことで、自らの言語能力を高める。
- 古典 助動詞を習得する。和歌の表現方法を学んで古人の思いに触れ、また説話・軍記物・歌物語を通して、古文独特の世界に親しむ。
- 漢文 再読文字や使役・疑問・反語・受身の句法を習得する。また、漢詩や思想・史話・故事成語の短文を通して、漢文の世界に親しむ。
- 表現 書く作業を通して、観察力・表現力をつける。また、グループ発表や質疑応答の作業を通して、筋道を立てて話す力・聞く力をつける。

## 学習方法

授業を大切にすることが基本である。授業前には必要なものを準備し、着席しておく習慣を付ける。授業中は、教師の説明や指示を注意深く聞き、授業の流れに沿って学習するのは勿論のこと、教材に応じて国語辞典あるいは古語辞典を引き、自ら学ぼうとする姿勢で臨む。ノートは板書や教師の説明を丁寧な字で確実に書くことに加え、自分なりの疑問や気づきをもメモする習慣を付ける。

授業時に出された課題は、丁寧に仕上げ、期限を守って提出することを心掛ける。

## 年間シラバス (1年間の学習予定表)

<現代文分野 週2時間>

学期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点と補講等
----	---------	--------------	-----------

1 学 期	1. 評論「絵はすべての人の創るもの」 2. 小説「羅生門」 3. 評論「水の東西」  ◇漢字	<ul style="list-style-type: none"> <li>・随想的な評論の読み方を習得する。</li> <li>・小説の基本的な読解方法を習得する。</li> <li>・近代の代表的な小説を読んで、短編小説についての理解を深め、面白さを味わう。</li> <li>・芥川龍之介に対する理解を深める。</li> <li>・二項対立的な評論の読解方法を習得する。</li> <li>・西洋文化と対比された日本文化の特徴について理解を深める。</li> <li>・問題集を用いて、漢字検定準 2 級合格を目指す。</li> </ul>	<b>【評価の観点】</b> ・国語への関心・意欲・態度 ・話す・聞く力 ・読む能力 ・書く能力 ・言語についての知識・理解・技能  <b>【評価方法】</b> 1. 定期考査の成績 定期考査においては、知識・理解や読む能力に偏ることなく、書く能力をみる出題もある。 2. 平常点 (1) 授業時などの学習過程で、評価の観点の 5 項目について評価する。 (2) 課題などの提出状況・復習テスト・小テストの成績などを評価する。
2 学 期	1. 評論「『間』の感覚」 2. 小説「富嶽百景」 3. 詩「贅のうへ」「一つのメルヘン」「くらげの唄」「I was born」  ◇漢字	<ul style="list-style-type: none"> <li>・二項対立的な評論の読解方法を習得する。</li> <li>・日本人の意識構造や、日本の伝統について認識を深める契機とする。</li> <li>・すぐれた描写、豊かなイメージ、効果的な表現効果を学び、言語感覚を磨く。</li> <li>・太宰治に対する理解を深める。</li> <li>・散文とは異なる詩ならではのイメージを味わい、感受性を養う。</li> <li>・問題集を用いて、漢字検定準 2 級合格を目指す。</li> </ul>	1 学期に同じ
3 学 期	1. 評論「科学の限界」 2. 短歌「その子二十」  ◇漢字	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体の構成を把握し、論の展開に即して正確に内容を読み取る。</li> <li>・短歌の鑑賞の仕方を習得する。</li> <li>・近代短歌の代表的な歌人・作品について理解を深める。</li> <li>・問題集を用いて、漢字検定準 2 級合格を目指す。</li> </ul>	1 学期に同じ

**年間シラバス** (1 年間の学習予定表)

< 古典分野 週 3 時間 >

学 期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点と補講等
1 学 期	1. 古文入門 古文の学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・古文の世界が現代生活に通じるものであること、そこで使われる言葉が現代日本語の基礎をなすものであることに気づかせ、古文に対する興味を育む。</li> </ul>	<b>【評価の観点】</b> ・国語への関心・意欲・態度 ・話す・聞く能力 ・書く能力 ・読む能力

	<p>「児のそら寝」 「絵仏師良秀」 （「いみじき成敗」）</p> <p>2. 物語を楽しむ 「かぐや姫のおいたち」</p> <p>「筒井筒」</p> <p>3. 漢文入門 漢文の学習 訓読に親しむ</p> <p>4. 故事成語 「漁夫之利」 「狐借虎威」 「蛇足」</p> <p>◇百人一首</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本文の音読・朗読を通して、古文のリズムに慣れる。</li> <li>・古文に親しみを持ち、話のおもしろさを理解する。</li> <li>・話の構成や展開を把握し、登場人物の行動や心情を読み味わう。</li> <li>・歴史的仮名遣い・古語の意味・品詞の種類・係り結びといった基礎知識を系統的に学習する。</li> <li>・昔話としてなじみのある作品を読み、古文に親しむ。</li> <li>・話の構成や展開を把握し、登場人物の行動や心情を読み味わう。</li> <li>・用言の活用について理解する。</li> <li>・口語訳の力を身につける。</li> <li>・歌物語を読んで、古文に親しむ。</li> <li>・話の構成や展開を把握し、登場人物の行動や心情を読み味わう。</li> <li>・歌物語における和歌の役割を理解する。</li> <li>・和歌の修辞技巧を理解する。</li> <li>・助動詞について理解し、口語訳に生かす。</li> <li>・係り結びの知識を確認する。</li> <li>・漢文を自国の文化に取り入れた先人の工夫を理解する。</li> <li>・漢文の構造を理解する。</li> <li>・訓読のきまり・書き下し文のきまりを理解する。</li> <li>・「訓読」という読解の技術を身につけることで漢文に親しむ。</li> <li>・短編の故事成語を読んで、まとまった漢文の読みに慣れる。</li> <li>・漢文訓読の基本事項を確認する。</li> <li>・平易な短い文章を読み、漢文の内容を理解する。</li> <li>・故事成語のもとになった話の内容を捉え、故事成語の現在使われている意味について理解する。</li> <li>・古代中国人の発想のおもしろさに触れる。</li> <li>・遊びを通して古文に親しむ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言語についての知識・理解</li> </ul> <p>【評価の方法】</p> <p>① 定期考査の成績 授業で学んだ知識が理解されているかを読解力・表現力を含めて評価する。</p> <p>② 学習態度等の平常点 授業時等の学習過程において、評価観点の5項目について評価する。</p> <p>・復習テスト・小テストの成績 課題などの提出状況などを評価する。</p>
2 学 期	1. 随筆を読む 「つれづれなるままに」 「ある人、弓射ることを習ふに」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・随筆を読んで、人間、社会などに対する作者の思想や感情を読み取る。</li> <li>・文章の内容を構成や展開に即して</li> </ul>	1学期に同じ

	<p>「丹波に出雲といふ所あり」</p> <p>2. 軍記物語を読む 「祇園精舎」 「木曾の最期」</p> <p>3. 古代の史話 「完璧」 「先従隗始」</p> <p>4. 漢詩の鑑賞 唐詩</p> <p>◇百人一首</p>	<p>的確に捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・表現上の特色を理解し、優れた表現に親しむ。</li> <li>・助動詞・助詞について理解を深め、口語訳に生かす。</li> </ul> <p>・軍記物語を読んで、古文に親しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話の構成や展開を把握し、登場人物の行動や心情を読み味わう。</li> <li>・表現上の特色を理解し、優れた表現に親しむ。</li> <li>・音便について理解する。</li> <li>・敬語について理解する。</li> </ul> <p>・比較的長い、平易な文章の漢文に慣れ、訓読のきまりについて確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中国の史伝に特徴的な簡潔な表現を味わい、そこから生まれた故事成語・成句などを正しく理解する。</li> </ul> <p>唐詩を読み味わい、中国古典文学への関心を高める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中国の自然や、人間の心理が詩にどのようによまれているかを考える。</li> <li>・漢詩のきまり（詩形・押韻・構成・対句）について理解する。</li> <li>・詩に表現された作者の心情について理解する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・楽しみながら和歌を理解する。</li> </ul>	
3 学 期	<p>1. 和歌の世界 万葉集 古今和歌集 新古今和歌集</p> <p>2. 日記(と紀行) 「亡児」</p> <p>(「旅立ち」)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・和歌の優れた表現に親しむ。</li> <li>・和歌によまれた思想・感情・情景を読み取る。</li> <li>・和歌の修辞技巧や『万葉集』『古今和歌集』『新古今和歌集』の時代の表現・語法上の特色を理解する。</li> </ul> <p>・日記を読んで、人間・社会などに対する作者の思想や感情を読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文章の内容を構成や展開に即して的確に捉える。</li> <li>・文章の表現上の特色を理解する。</li> <li>・助動詞の識別について理解する。</li> </ul> <p>・俳諧紀行文を読んで、自然・人間などに対する作者の思想や感情を読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文章の内容を構成や展開に即して的確に捉える。</li> </ul>	1学期に同じ

	3. 中国の思想 孔子と論語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・俳文における俳諧の役割を理解する。</li> <li>・俳諧を味読し、修辞技巧を理解する。</li> <li>・中国の思想を代表する儒家思想の概略を捉える。</li> <li>・『論語』における孔子の考え方を理解する。</li> </ul>	
--	-------------------	--	--

学年	第2学年	教科書	未定（決定次第、別紙にて連絡します）
		副教材	浜島書店 『国語便覧』 漢字検定2級対策問題集 文法テキスト 古文単語集

**学習到達目標**

（古典B）基本的な文法や句法の知識をさらに発展させながらさまざまな時代・分野の文章に触れることで、古典を読む能力を養う。また、古人の生き方や心情を読み取り、日本や中国の伝統や文化への理解を深めることで、人生を豊かにする態度を養う。

（現代文B）近現代の優れた文学的文章から、作者や登場人物の考え方や生き方をさまざまな角度から読み取る一方、自分の生き方を見つめる材料とする。説明的文章では、さまざまな分野の文章を取り扱うことで、語彙を増やし、視野や視点を広げる。また、論理構成を検証したり、自分の意見と比較したりすることで、思考力・判断力を高める。

**学習方法**

授業を大切にすることが基本である。授業前には必要な物を準備しておくのはもちろんのこと、授業中は教師の説明や指示を注意深く聞き、授業の流れに沿って学習できるようにする。

ノートは板書や教師の説明等を丁寧な字で確実に書くだけでなく、復習時に要点が理解できるような工夫を凝らす。

授業時に出された課題は、丁寧に仕上げ、期限を守って提出することはもちろんのこと、自分で調べた成果や自分の考えが伝わるような工夫を心がける。

**年間シラバス** （1年間の学習予定表）

<古典B 週3時間>

学期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点と補講等
1学期	1. 古文「説話」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・説話のおもしろさを味わい、古人のものの見方、感じ方、考え方について認識を深める。</li> <li>・古文に用いられている語句の意味用法及び文の構造を理解する。</li> <li>・作品の内容を、構成や展開に即して的確にとらえる。</li> </ul>	<b>【評価の観点】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国語への関心・意欲・態度</li> <li>・話す・聞く力</li> <li>・読む能力</li> <li>・書く能力</li> <li>・言語についての知識・理解・技能</li> </ul>
	2. 古文「随筆」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・随筆の簡潔で的確な表現を味わう。</li> <li>・作品の内容を、構成や展開に即して的確にとらえる。</li> <li>・文章に表れた人間、社会、自然などに対する思想や感情などを読み取り、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。</li> <li>・作者、作品に関する文学史的知識を深</li> </ul>	<b>【評価方法】</b> 3. 定期考査の成績 定期考査においては、知識・理解や読む能力に偏ることなく、書く能力をみる出題もあ

	<p>3. 漢文「故事成語」</p> <p>4. 漢文「史話」</p> <p>◇古典文法</p>	<p>める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの故事成語の本来の意味を理解し、現代に於ける意味や用法を習得する。</li> <li>・故事成語を生んだ文を原文で読むことによって、中国古典に由来する語句が現代生活に多く用いられていることを再認識し、日本文化と中国文化との関係について考える。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・長文の漢文を読み慣れることによって、文章の構成や展開を正しく理解する。</li> <li>・作品中の様々な人物の考え方や感情を的確に読み取り、自らのものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。</li> <li>・『史記』の表現技法や修辞、文体などの特色を理解し、その巧みな描写、簡潔な語調などの優れた表現に親しむ。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・助動詞の復習をする。</li> <li>・助詞の用法を学ぶ。</li> <li>・敬語表現について学ぶ。</li> </ul>	<p>る。</p> <p>4. 平常点</p> <p>(1) 授業時などの学習過程で、評価の観点の5項目について評価する。</p> <p>(2) 課題などの提出状況・復習テスト・小テストの成績などを評価する。</p>
2 学期	<p>1. 古文「日記」</p> <p>2. 古文「物語」</p> <p>3. 漢文「思想」など</p> <p>◇古典文法</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仮名文の日記が生まれた背景、作品と社会的な背景との関わりを考え、理解する。</li> <li>・文章に表れた人間、社会、自然などに対する思想や感情などを読み取り、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。</li> <li>・文章の表現上の特色を理解し、優れた表現に親しむ。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歌物語や歴史物語、長編の物語などのおもしろさを読み味わう。</li> <li>・作品の内容を構成や展開に即して的確にとらえる。</li> <li>・作品に表れた人間、社会、自然などに対する思想や感情などを読み取り、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・古代中国の思想家たちの、人間・社会・自然などに対する様々な考え方や感情を的確に読み取り、自らのものの見方、感じ方を豊かにする。</li> <li>・古代中国を代表する思想書を読むことによって、日本文化との関係について考える。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文章を読む中で、助動詞・助詞・敬語表現についての理解を深める。</li> </ul>	1学期に同じ
3 学期	<p>1. 古文「俳論」</p> <p>2. 漢文「小説」</p> <p>◇古典文法</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・俳論を読んで、厳しい添削の過程を学ぶ。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文章の構成や展開を正しく理解する。</li> <li>・物語性に富んだ長文の散文教材を読むことによって、その表現技法や修辞、文体などの特色を理解し、親しむ。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文章を読む中で、助動詞・助詞・敬語</li> </ul>	1学期に同じ

		表現についての理解を深める。	
--	--	----------------	--

<現代文B 週2時間>

学期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点と補講等
1 学期	1. 評論  2. 小説  ◇漢字	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章の展開に注意して内容を捉え、筆者の主張や文章の要旨をまとめる。</li> <li>文章を読んで感じたことや考えたことをまとめるなどして、内容への理解・関心を深める。</li> <li>人物の心情を捉えながら、主題を読み取る。</li> <li>登場人物の生き方について理解を深め、自分の考えを持つ。</li> <li>問題集を用いて、漢字検定 2 級合格を目指す。</li> </ul>	<p>【評価の観点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>国語への関心・意欲・態度</li> <li>話す・聞く能力</li> <li>書く能力</li> <li>読む能力</li> <li>言語についての知識・理解・技能</li> </ul> <p>【評価方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>定期考査の成績 定期考査においては、知識・理解や読む能力に偏ることなく、書く能力などをみる問題も出題する。</li> <li>学習態度等の平常点 (1) 授業時などの学習過程で、評価の観点の5項目について評価する。 (2) 課題などの提出状況・復習テスト・小テストの成績などを評価する。</li> </ol>
2 学期	1. 詩歌  2. 評論  3. 小説  ◇漢字	<ul style="list-style-type: none"> <li>表現技法とその効果について学習する。詩に込められた作者の思いを読み取る。</li> <li>文章の展開に注意して内容を捉え、筆者の主張や文章の要旨をまとめる。</li> <li>新しい視点を獲得し、自分の考えの幅を広げる。</li> <li>人物の心情を捉えながら、主題を読み取る。</li> <li>登場人物の生き方について理解を深め、自分の将来にも生きるような考えを育む。</li> <li>問題集を用いて、漢字検定 2 級合格を目指す。</li> </ul>	1 学期に同じ
3 学期	1. 小説  2. 評論  ◇漢字	<ul style="list-style-type: none"> <li>人物の心情を捉えながら、主題を読み取る。</li> <li>登場人物の生き方について理解を深め、自分の将来にも生きるような考えを育む。</li> <li>文章の展開に注意して内容を捉え、筆者の主張や文章の要旨をまとめる。</li> <li>評論を読むために必要な語彙力を付け、次の進路に向けての土台を構築する。</li> <li>問題集を用いて、漢字検定 2 級合格を目指す。</li> </ul>	1 学期に同じ

学年	第3学年	教科書	未定（決定次第、別紙にて連絡します）
		副教材	国語便覧 文法テキスト 漢文テキスト

### 学習到達目標

高校3年生では、将来の進路選択や自立に備えて自己を確立し、高2で磨いた自己を表現する能力をさらに発展させていく。

(現代文B) 近現代の優れた文学的文章から、作者や登場人物の考え方や生き方をさまざまな角度から読み取る一方、自分の生き方を見つめる材料とする。説明的文章では、さまざまな分野の文章を取り扱うことで、語彙を増やし、視野や視点を広げる。また、論理構成を検証したり、自分の意見と比較したりすることで、思考力・判断力を高める。

(国語演習)

現代文・古典の枠にとらわれず様々な時代・分野の作品に触れ、その時代に生きる人々の生き方や心情・考え方を理解し、自分の意見や主張の形成に役立てる。また、小論文や作成したりディベートを重ねたりすることで、論理的に考えたり表現したりする能力を高める。

(古典A)

基本的な文法や句法をさらに発展させながら、一定のまとまりがある作品を連続して取り扱い、古典の世界に生きる人々の生き方や考え方に対する理解を深める。また、高3までそれほど取り上げてこなかった上代や江戸の作品にも触れ、日本の文化を深く掘り下げて考える。

### 学習方法

授業を大切にすることが基本である。授業前には必要な物を準備しておくのはもちろんのこと、授業中は教師の説明や指示を注意深く聞き、授業の流れに沿って学習できるようにする。

ノートは板書や教師の説明等を丁寧な字で確実に書くだけでなく、復習時に要点が理解できるような工夫を凝らす。

授業時に出された課題は、丁寧に仕上げ、期限を守って提出することはもちろんのこと、自分で調べた成果や自分の考えが伝わるような工夫を心がける。

### 年間シラバス (1年間の学習予定表)

<現代文B 週2時間>

学期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点と補講等
1学期	1. 評論	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章の展開に注意して内容を捉え、筆者の主張や文章の要旨をまとめる。</li> <li>文章を読んで感じたことや考えたことをまとめるなどして、内容への理解・関心を深める。</li> </ul>	<p>【評価の観点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>国語への関心・意欲・態度</li> <li>話す・聞く能力</li> <li>書く能力</li> <li>読む能力</li> <li>言語についての知識・理解・技能</li> </ul> <p>【評価方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>定期考査の成績 定期考査においては、知識・理解や読む能力に偏ることなく、書く能力などをみる問題も出題する。</li> <li>学習態度等の平常点 (1) 授業時などの学習過程で、評価の観点の5項目について評価する。 (2) 課題などの提出状況・復習テスト・小テストの成績などを評価する。</li> </ol>
	2. 小説 ◇漢字	<ul style="list-style-type: none"> <li>人物の心情を捉えながら、主題を読み取る。</li> <li>登場人物の生き方について理解を深め、自分の考えを持つ。</li> <li>漢字検定2級程度の力の定着をはかる。</li> </ul>	
2学期	1. 詩歌	<ul style="list-style-type: none"> <li>表現技法とその効果について学習する。詩に込められた作者の思いを読み取る。</li> </ul>	1学期に同じ
	2. 評論	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章の展開に注意して内容を捉え、筆者の主張や文章の要旨をまとめる。</li> </ul>	

	3. 小説「舞姫」など  ◇漢字	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新しい視点を獲得し、自分の考えの幅を広げる。</li> <li>・それぞれの登場人物の生き方について理解を深め、自分の考えを持つ。</li> <li>・作品中の出来事がそれぞれの立場から見るとどのように映るのかを考える。</li> <li>・漢字検定2級程度の力の定着をはかる。</li> </ul>	
3 学 期	1. 小説  2. 評論  3. 読書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人物の心情を捉えながら、主題を読み取る。</li> <li>・登場人物の生き方について理解を深め、自分の将来にも生きるような考えを育む。</li> <li>・文章の展開に注意して内容を捉え、筆者の主張や文章の要旨をまとめる。</li> <li>・評論を読むために必要な語彙力を付け、次の進路に向けての土台を構築する。</li> <li>・長編を中心に読書し、様々な生き方や考え方に触れ、自分の将来について考える。</li> </ul>	1学期に同じ

<国語演習 週2時間>

学 期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点と補講等
1 学 期	1. 古典  2. 「小論文入門」「話すこと・聞くこと入門」など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な文法や句法を復習する。</li> <li>・中古や中世の古典に触れ、その時代に生きる人々の生き方や心情・考え方を理解する。</li> <li>・論理的な文章を書く力を身につける。</li> <li>・朗読やスピーチ、インタビューなどの基本的な方法を学ぶ。</li> </ul>	<p>【評価の観点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国語への関心・意欲・態度</li> <li>・話す・聞く能力</li> <li>・書く能力</li> <li>・読む能力</li> <li>・言語についての知識・理解・技能</li> </ul> <p>【評価方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 定期考査の成績 定期考査においては、知識・理解や読む能力に偏ることなく、書く能力などをみる問題も出題する。</li> <li>2. 学習態度等の平常点 (1) 授業時などの学習過程で、評価の観点の5項目について評価する。 (2) 課題などの提出状況などを評価する。</li> </ol>
2 学 期	1. 短歌・俳句の創作  2. 「小論文」「ディベート」など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・俳句や短歌を作ることで、普段何気なく見過ごしているものに目を向ける感性を養う。</li> <li>・課題に出された文章に取り組むことを通して、様々な問題や思考に触れ、まとまりのある小論文を作成する。</li> <li>・問題解決のための議論をディベートという形で行う。</li> </ul>	1学期に同じ

3 学期	1. 「プレゼンテーション」など	<ul style="list-style-type: none"> <li>発表の内容とその伝達の方法に積極的な工夫・改良を加える。</li> <li>口頭の言葉だけでなく、様々なツール使ったり、寸劇を挿入したりして聞き手の参加を促す工夫をする。</li> </ul>	1学期に同じ
---------	------------------	---	--------

<古典A 週3時間>

学期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点と補講等
1 学期	1. 古文「源氏物語」など  2. 漢文「史記」など	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な文法事項に加えて発展的な内容についても学習する。</li> <li>中古や中世に書かれた長編作品の一つを一定期間取り上げ、その時代に生きる人々の生き方や心情について深く掘り下げて考える。</li> <li>基本的な漢文の句法に加えて発展的な内容についても学習する。</li> <li>漢文の長編作品の一つを一定期間取り上げ、時代背景やそこに生きる人々の生き方や心情について深く掘り下げて考える。</li> </ul>	<p>【評価の観点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>国語への関心・意欲・態度</li> <li>話す・聞く能力</li> <li>書く能力</li> <li>読む能力</li> <li>言語についての知識・理解・技能</li> </ul> <p>【評価方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>定期考査の成績 定期考査においては、知識・理解や読む能力に偏ることなく、書く能力などをみる問題も出題する。</li> <li>学習態度等の平常点 (1) 授業時などの学習過程で、評価の観点の5項目について評価する。 (2) 課題などの提出状況などを評価する。</li> </ol>
2 学期	1. 古文  2. 漢文	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な文法事項に加えて発展的な内容についても学習する。</li> <li>中古や中世に書かれた長編作品の一つを一定期間取り上げ、その時代に生きる人々の生き方や心情について深く掘り下げて考える。</li> <li>基本的な漢文の句法に加えて発展的な内容についても学習する。</li> <li>漢文の長編作品の一つを一定期間取り上げ、時代背景やそこに生きる人々の生き方や心情について深く掘り下げて考える。</li> </ul>	1学期に同じ
3 学期	1. 「上代文学」「江戸文学」など	<ul style="list-style-type: none"> <li>上代や江戸の文学など幅広い時代の文学に触れ、その時代に生きる人々の生き方や心情・考え方を理解し、自分の意見や主張の形成に役立てる。</li> </ul>	1学期に同じ